

Nationwide survey of the prevalence of wheeze, rhino-conjunctivitis, and eczema among Japanese children in 2015

出典	Allergology International 2020;69(1):98-103 (https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/31548125/)
著者	Emi Morikawa et al.
調査地域	全国
調査時期	2015年7月
調査対象	小学校の1-2年生(6-8歳)と中学(7-8年生)(13-15歳)
依頼数	6-8歳 50,392人 13-15歳
有効回答数 または回収率	6-8歳 86.3% 13-15歳 72.9%
診断方法	日本語版 ISAAC
有症率	6-8歳 14.6% 13-15歳 9.7%
調査概要	各都道府県の小・中学校をランダムに選び、ISAACを用いて喘鳴、鼻結膜炎、および湿疹の有症率を調査した論文。6-8歳は有症率に性差はなく、13~15歳は女性の方が有症率が高かった。有病率は両性とも年齢によって減少し、男性はより大きな減少を示した。都道府県別の有病率分布は両年齢群で類似性があったが、分布の特徴は明確に識別できなかった。